

2021.09.23. 木曜礼拝

恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだから

旧約聖書：イザヤ書 43 章

こんばんは。始まりが遅れて申し訳ありません。木曜日の夜の礼拝は、(旧約) 聖書を書ごと、章ごと、節ごとに学んでいて、現在素晴らしい「イザヤ書」です。今夜は、御心なら、43 章 44 章の 2 つを学び終えたいと思います。今夜は、御心なら、43 章 44 章の 2 つを学び終えたいと思います。主が私たちにご用意下さっている事が本当に楽しみです。毎週言っているのは分かっていますが、主が御言葉で私たちにご用意下さっている事が毎週楽しみなのです。毎週言っているのは分かっていますが、主が御言葉で私たちにご用意下さっている事が毎週楽しみなのです。今夜も例外ではありません。それでは始める前に、祈りで主に、御言葉において私たちの時間を祝福くださるようお願いしましょう。と一緒に祈りましょう。

天のお父様。木曜日の夜に教会の体として集うこの時間のため、あなたの御言葉に本当に心から感謝します。忙しい毎日の生活のストレスを全て脇に置き、特に今起きている全てのこと、特に今病の床にある人々のために。主よ、私たちの時間にあなたの祝福を祈ります。私たちはあなたに近づきたいのです。主よ、これが、今夜あなたの御前で私たちの姿勢です。私たちは、絶望し、飢え渴いている者として、姿勢を正しあなたの御前に近づきたいのです。今からの「イザヤ書」の学びで見ていく通り、私たちの魂が必要としている渇きや飢えを満たすことができるのは、主よ、あなただけであることを知っています。先ほど歌い終わった通り、「主よ、私たちは今、あなたが必要なのです。」主よ、私たちはあなたが必要で、私たちはあなたが必要なのです。ですから、主よ、今夜、あなただけが御出来になる通り、あなたの御言葉の中で、また御言葉を通して、私たちを導き、私たちの人生に語りかけてください。

主よ、今夜、ここにいる多くの人やオンラインで見ている人が、あなたが話すのを必死に聞いています。聖霊の静かな、小さな精錬された御声で主よ、お語りください。主よ、どうか私たちのためにそうしてくださいませんか？ 語り、導いてくださいませんか？ 私たちを落ち着かせ、安定させ、慰め、助けてくださいませんか？ 主よ、感謝します。私たちはあなたを心から愛しています。イエスの御名によって。アーメン、アーメン。

それでは、今夜私たちの前にある 2 つの章は、神は、預言者イザヤを通して、神がいつも共にいて下さることを民に思い出させ、安心させておられます。神は決して、彼らから離れられることはなく、見捨てられることはありません。そうすることで、神は実際に彼らに命じておられます。このことについては、これから詳しくお話したいと思いますが、実際に命じておられるのです。神は民に、「恐れるな」と命じておられます。なぜなら、神が彼らを創造し、形成し、呼び寄せ、贖われたお方だからです。では、贖われるとはどういうことなのか、もう少し具体的にお話します。当時の彼ら同様、これは今の私たちにも当てはまり、私たちに対する神の御言葉で、私たちが生きているこの危険な終わりの時代のために適切に語られています。このことは、最初の 1 節から目にするようになります。

### イザヤ 43

1 だが今、主はこう言われる。ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。(これ大好きです) あなたは、わたしのもの。

「あなたは、わたしのもの。あなたはわたしに属しているのです。なぜなら、わたしがあなたを贖ったか

ら。」皆さんその意味分かりますか？ その内容をご存知ですか？ 昔も今も、払えないような借金をしたら、大抵、誰かが、通常は親戚が名乗りを上げ、あなたの代わりに借金を払い、あなたを奴隷から解放してくれます。というのも、当時借金をして、払えなくなってしまうと、連邦破産法 11 条とか連邦倒産法第 13 章など、破産申請や更生などというものはありませんでした。支払えない借金を負っている。あなたは今、その借金を返すため奴隷になったのです。そして当時は、誰かが来てくれて、繰り返しますが、通常は親族が名乗り出ることが多いのですが、お聞きください。

「私は彼らを贖います。私は彼らのために彼らの負債を全額支払います。私は彼らをこの奴隷状態、返済のために奴隷になっているこの借金の奴隷状態から解放します。私が払います。」

それが主の仰っていることです。私たちが歌う歌のように、“私はあなたの負債を支払った。”イエスが負債を負ってくださった。イエスが負債を支払ったのは、イエスが借金をしていたからではありません。私たちに借金があったのに、自分で支払う事ができなかったから。罪の負債です。イエスは私たちのために、全額支払ってくださいました。そしてイエスが、私たちを買い戻して下さいました。私たちは、自分たちのものではありません。なぜなら、私たちは、代価を払って買われたからです。私たちは、イエスのものです。「あなたはわたしのもの。」「私は、あなたを買い戻しました。私は、あなたのために支払いました。私は、あなたを贖いました。」

さて、なぜそれが重要なのでしょうか？ なぜなら、こんな風に考えてみてください。イエスは、私たちを買い戻す際に、投資されています。私たちを贖われたからです。私たちは彼のものです。それが故に、それに伴ってくるのが、私たちは、イエスに属しているのであり、イエスが、私たちに責任があられます。イエスが、私たちの面倒を見て下さいます。

「恐れなくて。わたしがあなたを贖ったのだから。わたしは既にあなたを買い取ったのだから。あなたはわたしに属しているのです。心配したり恐れたりしないで。わたしがあなたの名前を呼んだのだから。あなたはわたしのもの。わたしがあなたを形造ったのだから。わたしがあなたを創造したのだから。これを再度見て行きます。ここでもう一度、1 節目の始まりからです。これは、こんにち多くの人が必要としている安心感だと皆さん同意されると思います。そう思いませんか？ 私の場合、気づかされる必要があると思っています。私がイエスに属している事を。イエスが贖って下さったことを。だから私は怖がらず、恐れなくて。」

「あなたは何も恐れることはありません。あなたはわたしのものです。誰もあなたには手を出せません。あなたはわたしのものだから。」つまり、なんとというかこのユーモアを許してくださいね。しかし、私はこのように考えています。こんな感じです。

「私のパパが誰か知ってる？」「私が誰のものか知ってる？」「誰が私を贖ってくれたか知ってる？」

「誰が私を買い戻してくれたと思う？」「私は誰に属していると思う？」「私は神に属しているのです。神が贖ってくださったのです。」

お～因みに、私を贖って下さった方が私を創造して下さったのです。言わば、ボーナスです。ごめんなさい。ちょっと雑な言い方ですが。これが宣言なのです。”主は、こう言われる。” 当時の彼らに。そして今、これは、主が、私たちに語っておられることです。

## イザヤ 43

**2**あなたが水の中を過ぎるときも、わたしは、あなたとともにいる。川を渡るときも、あなたは押し流されず、火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。

OK。私は告白しなければなりません。When/～する時、と言う単語ではなく、If/もしも～するなら、という単語だったら本当に良いのにとおもいます。こう言えたらどんなに良いかとおもいます。

「もしも、偶然あなたが水の中を通るなら、わたしは、あなたとともにいる。」「もしも、偶然あなたが火の中を歩くなら、わたしは、あなたとともにいる。」もしも、ではなく、そうなる時、なのです。宜しければ、私がしたように、原文で調べ、本当の意味かどうか確認してみてください。皆さんが見つかる、When/～する時、という言葉の意味は、そう、Whenの意味はWhen/～する時。もしも起こるなら、ではなく、これが起こる”時”です。人生で、水に圧倒されるような経験をした時、私たちが言うところの、水面に頭を出すのがやっとという時、主は、あなたと共におられるのです。燃えるような試練を受けている時、あなたは焼かれませんか。実際、炎があなたに燃えつきません。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを考えます。物語の中には、興味深い詳細が含まれています。煙の匂いもしなかったのです。からかっているのですか？ バーベキューをすると、バーベキューの匂いがします。私が服を洗ったり、髪を洗ったりしたら、まあ、私は残り少ないので、髪の毛に残るものはあまりありませんが、彼らには、煙の匂いもしなかったのです。心に留めておいてください。その中に放り込まれた彼らは、燃え盛る炉の中で、生きたまま焼かれたのです。近づいただけで焼かれてしまったのです。疑問なのは、ここでバビロン追放に関する預言を見ることになるのですが、聖霊に導かれたイザヤは、ダニエル書に記録されているあの記述を念頭に置いていなかったのでしょうか。苦難の炉の中にいて、火をくぐっても、焼かれない時があります。焦げ付くこともない。なぜか？ なぜなら主が、燃え盛る炉の中でシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴと共におられるように、私たちと共におられるからです。ですから同様に、私たちがそれを経験する時、主は共にいてくださるのです。皆さんが私同様なら、そうだと思いますが、経験したくありませんよね。事実、主があなたをそこから解放して下さる事を祈りますよね。主の答えは、

「いいえ。あなたをそこから救い出すつもりはありません。わたしがあなたを乗り越えさせるからです。」  
真実を知ってもらいたいとおもいます。

「あなたは、私があるあなたを、そこから解放することを望んでいません。私があるあなたにそういう経験をさせる事で、あなたの人生で私がするすべてのことのためです。」考えてみると、二度と経験したくないと思うような人生で辛く大変だったあの頃、あなたがそれを経験したとき、主があるあなたの人生にしてくださったことは、決して何にも替えられないでしょう。私の場合、非常に苦しい試練の中で、主と二人だけで親密になることは、何にも替え難いことを知っています。主は、心の傷ついた人、砕かれた人、悔い改めた人に寄り添ってくださいます。そのような時が、あなたが最も主に近い時です。実際、私はその時のことを懐かしく思い、その試練の中で、いかに主に近かったかを振り返り、思い出すことで、ある種の痛みを感じます。その時の思い出が詰まっています。お～、確かに苦しかったです。しかし、主がすぐそこにおられたから、私は主に近づけたのです。実際、主はその場におられただけでなく、以前にも増して私の近くにいて下さいました。私がある試練を経験していたからです。では、3節、今夜の学びでは、このことを強調したいと思います。預言者イザヤがここで記録し、書いていることを理解する上で重要なことだからです。強調する点は、“I=わたしが”です。“わたしが、あなたの主、神である” “彼らはあなたの神ではない。あれはあなたの神ではない。” “あなたはあれが、自分の神だと思っているかもしれないが、あなたの神ではない。あれは全く神ではない。”

### イザヤ 43

**3 わたしはあなたの神、主、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしはエジプトを**

あなたの身代金とし、クシュ(エチオピア) とセバをあなたの代わりとする。

次の4節は興味深いです。その理由は、

#### イザヤ 43

#### 4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。

ちょっと考えてみてください。皆さん、あなたは主の御目に高価で尊いのだと気づいていますか？ 親として、地上のダメな父親として考えます。私にとって、子どもたちが、どれほど貴重な存在であるか、どれほど彼らを愛しているか。実は今日、ちょうどこのことを考えていました。実は昨日、誰かこの話をしていたんですよ。こんなに人を好きになれるとは思わないでしょう。つまり、そのことを考えた上で、天の御父が、どれだけあなたを愛しているかを考えてみてください。つまり、それだけ子どもを愛していて、地上でダメな親で、なのにあなたは尊い、ダメなのに。主の側ではどれほどのものなのでしょうか。

#### 4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だから、わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする。

そしてここで再度です。5節、

#### 5 恐れるな。(なぜか?なぜなら) わたしがあなたとともにいるからだ。(恐れることは何もない。)

わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。

#### 6 北に向かっては『引き渡せ』と言ひ、南に向かっては『引き止めるな』と言う。わたしの息子たちを遠くから来させ、娘たちを地の果てから来させよ。

#### 7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。

ここでもう一度。これがあります。命じるを強調したいと思います。これは命令です。神は私たちに命じておられます。”恐れるな。恐れてはいけません。”これは従わなければならない命令です。”恐れるな” またその理由は、主が私たちと一緒におられるからです。私たちは決して一人ではありません。キリストにあるなら、私たちは決して一人ではありません。主は決して私たちから離れず、私たちすべてを見捨てられません。ただ、彼が離れておられるように感じることはないわけではありません。でもそうではないのです。祈っても、祈りが天井から跳ね返ってくるように思える時はどうでしょう？ そうじゃありません。以前のように、神が聞いておられない、動いて下さらない、答えて下さらない、現れて下さらないと感じる時はどうでしょう？ 主は、そこにおられないということでしょうか？ 時に神は沈黙を守られます。しかし、その沈黙の中でこそ、主はその時、最も大きな声で語られるのです。8節、これもまた、ユーモアで見るのをお許してください。

#### 8 目があっても見えない民

ちょっと待ってください。これは、私がいないと始まらないですよ。

...耳があっても聞こえない者たちを連れ出せ。

#### 9 すべての国々をともに集わせ、諸国の民を集めよ。彼らのうちのだれが、われわれにこのことを告げ、初めのことを聞かせることができるだろうか。彼らが自分たちの証人を出して証言し、人々がそれを聞いて、『本当だ』と言うようにせよ。

OK、ここからがユーモアのある所です。神は、諸国に集まって、ご自分が間違っていることを証明してみなさいと仰っています。目撃者を連れてきて証言してみなさいと。目の見えない者、耳の聞こえない者を連れてきて、聞いたことを言わせてみなさいと。お～待って。彼らは耳が聞こえない者だ。彼らには聞

こえない。お～OK、彼らに見たことを、彼らが目撃したものを証言し、証明させなさい。お～待つて。彼らは目が見えない者だ。繰り返しますが、このユーモアをお許しいただきたいのですが、これは、目が見えない神々や耳の聞こえない神々を崇拜する民たちに、神が挑戦しておられるのです。このことは再度見ていきます。彼らにやらせてみなさい。神は挑戦しておられます。彼らにさせてみなさい。彼らに証言してもらおう。どうぞ。どうぞ。敢えていえば、私が間違っていると証明してみなさいと。どうぞ、私に話してみなさい。宣誓のもとに証言してみなさい。あなたたちの意見を聞いてみよう。あなたには出来ない。出来ないのです。10 節、

**10 あなたがたはわたしの証人、——主のことば——わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、“わたしが”その者であることを悟るためだ。わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にも、それはいない。**

**11“わたし、このわたしが”主であり、ほかに救い主はいない。**

これは、旧約聖書に書かれていることを彷彿とさせます。特に出エジプト記で、神がモーセに命じ、アロンに民衆に語りかけさせ、こう言わせられました。「私は、あなたをエジプトから、奴隷から救い出した主である。私があるの神、主である。」繰り返しますが、強調しているのは、“I=わたしが” あなたの主、神である。なぜ神は、ご自分が主であることを強調する必要があるのでしょうか？

「イスラエルよ、聞け、主が唯一の神、あなたの神、主である。”わたしが” あなたの主、神である。」イスラエル人をエジプトから脱出させた後、エジプトをイスラエル人から脱出させなければならなかったからです。なぜなら、何が起こったかと言うと、民がエジプトにいたとき、エジプトの他の神々の存在を知ったからです。そして、あ～因みに、エジプトは神々の数には事欠きません。彼らにはたくさんの神々がいました。3000 以上の神々がいました。事実、10 の災いは、エジプト人が崇拜していた神々の一つ一つに対するものでした。エジプト人はナイル川を崇拜し、彼らはナイルを神とみなしていました。彼らが崇拜したのは、お聞きください。これは面白いですが、彼らはカエルを崇拜しました。ファラゴではありません。フォラゴ=カエルです。神がこんな感じで仰っています。「あなたがたはカエルが好きなのですね。カエルを神だと思っているのですか？ わたしが主、神である。わたしを見ていなさい。」

10 の災いの一つ一つは、繰り返しますが、エジプト人が崇拜していた神々に対するものでした。そして民がエジプトから脱出し、モーセがシナイ山にいた時、モーセがあまりにも長い時間戻らないので、民は諦めてしまったようです。それで彼らは、モーセの兄のアロンに言います。

「どうもモーセは戻って来ないようだし、私たちには、新しい神が要ります。私たちは新しい神が欲しいのです。どうやら彼は戻ってこないようだから。」そうやって、彼らはアロンに、プレッシャーをかけました。アロンは、その圧力に屈してしまい、黄金を集めて、金の子牛の像を造りました。その考えはどこから来たのか？ ああ、エジプトです。牛を崇拜しているのです。アロンは、イスラエルの民たち同様、エジプトからその考えを得ました。それからアロンが、金の子牛を造った後、想像してみてください。アロンは立ち上がって宣言します。

**「イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々だ。」(出エジプト 32:4)**

違います！！ モーセが戻ってきたときのアロンの説明は、なんとも滑稽です。アロンが基本的に言うのは、これは非常に緩い言い換えですが、

「兄弟よ、本当に申し訳ない。何が起こったのか分からないのだが、私はただこの金を火にくべると、パッと金の子牛が出てきたんだ。するとみんな踊り始め、この恐ろしい物に、崇拜し出したんだ。」「へ～上

手いけど、残念。」「イスラエルよ。あれはあなたがたの神ではない。わたしが主、神である。」  
それがここで強調されている理由です。「わたし、このわたしが主であり、ほかに救い主はいない。」  
あの金の子牛は、あなたがたをエジプトの奴隷状態から救ってはいない。わたしがあなたがたを救い出したのだ。わたしが主、神である。

**12 このわたしが、告げ、救い、聞かせたのだ。あなたがたのうちに、異なる神はいなかった。だから、あなたがたはわたしの証人。(証言するのはあなたがたです。)—主のことば—わたしが神だ。**

13 これから後もわたしは神だ。...

この聖書の学びが終わる頃には、皆さんの思考と心に「わたしが」が刻み込まれ、消えないように焼き付けられているでしょう。当然、それは良いことです。

**13 これから後もわたしは神だ。わたしの手から救い出せる者はない。わたしが事を行えば、だれがそれを戻せるだろうか。**

わたしが事を行えば、質問、「誰がそれを覆すのか？」学校で授業を受けているとき、先生が質問をして、答えが分かっていると、手を挙げてしまうことがありますよね。「ああ、私は答えが分かります。」ここでそれができます。私は、この質問の答えが分かっています。(JD 牧師挙手中)「だれがそれを戻せるだろうか。」「誰にも出来ません。」—正しい答えです。再度、私のユーモアを許してくださいね。私の症状を表す臨床用語があるのは知っていますが、それが正解ですよね。誰が覆せますか？ 神がなされたことを。あなたが覆すのですか？ —いいえ、私には出来ません。ではそちらのあなたは？ —いいえ出来ません。誰も、神がなされたことを何一つ覆すことは出来ません。

**イザヤ 43**

**14 あなたがたを贖う、イスラエルの聖なる方、主はこう言われる。「あなたがたのために、わたしはバビロンに使いを送り、彼らをことごとく逃亡者として下らせる。カルデア人を彼らの喜びの船で。**

**15 わたしは主、あなたがたの聖なる者、イスラエルの創造者、あなたがたの王である。」**

**16(主はこう言われる) 海の中に道を、激しく流れる水の中に通り道を設け、**

**17 戦車と馬、強力な軍勢を引き出した主はこう言われる。「彼らはみな倒れて起き上がれず、灯芯のように消え失せる。**

おっと、災いです。これは何でしょうか？ はい、これは預言です。イザヤが預言しているのは、まだ先のバビロン人によるユダ征服と70年に渡るユダの追放、そして、バビロン人に対する神の裁きです。これはまだ未来の話です。この章の最後に、もう一つの非常に深い預言を見ることになります。

**イザヤ 43**

**18 先のことに心を留めるな。後で戻りますので、これを覚えておいてください。昔のことに目を留めるな。**

**19 見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。**

**20 野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水を、荒れ地に川を流れさせ、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。**

**21 わたしのためにわたしが形造ったこの民は、わたしの栄誉を宣べ伝える。**

これについて話しましょう。”心を、目を留めるな”神は、私たちの過去の罪ではなく、神が過去になされたことだけを覚えていてほしいと願っておられるのが、この節に印象的な対比で織り込まれています。

これをお聞きください。これは非常に重要なことです。敵はあまりにも準備万端で有能であり、悲しいことに往々にして、私たちに過去の罪を思い出させることに成功しているからです。そして、私たちの顔に泥を塗り続けています。「あれをした時のことを覚えてる？」—ああ。「覚えてる？」—はい。

そうではありません。「先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。」ちょっと待ってください。なぜなら、神は何度も「思い出しなさい」と仰いました。そして今は、心に留めるな（思い出すな）と仰います。—そうです。どっちなのですか？ 思い出せ？ 思い出すな？ いいえ、両方です。どちらですか？ 思い出さないのか、思い出すのか。答えは、はい、両方です。どういう意味ですか？ 過去の罪は、思い出してはいけません。わたしが赦したからです。わたしがあなたを贖ったからです。でも、覚えておいてほしいことがあります。過去にわたしがあなたにしたことは、覚えておいてほしいのです。覚えていますか？ 荒野にいたときのことを覚えていますか？ 飲む水がなく、あなたがたがわたしに向かってつぶやき、不平を言い、非難していたのを知っています。

**「エジプトに墓がないから、荒野で死なせるために、あなたは我々を連れて来たのか。」(出エジプト 14: 11)**

ええ、わたしはそれを覚えています。それは思い出してほしくないですね。わたしが、あなたがたに思い出してほしいことはこれですあなたがたが荒野にいたとき、わたしが奇跡的に水を与えたことを思い出してほしいのです。実際、私がモーセに岩を打たせた時のことを覚えていますか？ 彼はそれを 2 回打ってしまった。実際 2 回目は、語り掛けなければならなかったのです。しかし、それはまた別の機会にお話します。あの日の事、覚えていますか？ —ああ、そうだ、私たちは喉が渴いていたんだ。モーセが岩を打つと水が流れ出て、あなたの渴きを癒したことを覚えていますか？ —はい。それを覚えています。それを覚えています。じゃあ、非常に喉が渴いたあの時についてはどうですか？ あなたがたが、水のある場所にたどり着き、飲んでも吐き出してしまうようだった。なぜか？ 苦かったからです。(出エジプト 15: 23 参照)「苦くて飲めない。」あなたがたは、わたしとモーセに不平を言いました。(出エジプト 15: 24 参照)

喉が渴いていたのに、水が苦くて飲めなかったからです。ここに水があるのに、水が苦かったから。わたしがしたことを覚えていますか？ はい、モーセに木（十字架の描写）を示され、それを苦い水の中に入れると甘くなりました。(救いの描写) (出エジプト 15: 25 参照) そして、あなたがたはその水を飲み、渴きは満たされました。それを覚えていますか？ —はい。そうでした。あなたは、その苦い水を甘い水に変え、私たちの渴きを癒して下さいました。主は、それを私たちに覚えていてほしいのです。主は、私たちがした悪いことにもかかわらず、主がなさった事、主がして下さった良い事を覚えていてほしいと思われています。

**イザヤ 43**

**22** しかし、ヤコブよ、あなたはわたしを呼び求めなかった。むしろ、イスラエルよ、(興味深いです) あなたはわたしのことで疲れ果てた。

**23** あなたはわたしに全焼のささげ物の羊を携えて来ることはなく、いけにえを献げてわたしをあがめようとしなかった。わたしは穀物のささげ物のことであなたに苦勞をさせず、乳香のことで、あなたを煩わせてもいない。

**24** あなたはわたしのために、金で菖蒲を買わず、いけにえの脂肪で、わたしを満足させなかった。かえって、あなたの罪でわたしに苦勞をさせ、(どうですか?) あなたの咎でわたしを煩わせたただけだ。(どう

ですか?)

あなたがたは、私に飽きた、私に疲れたと思っているのですか？ 実際逆です。私があなたがたに疲れしました。つまり、読んでられません。特に、それが自分のことを言っていると気づいたときには。さあ、正直になりましょう。この傾向は、私たち誰にでもあります。私たちの成長の中で主を呼び求めず、主を疲れさせてしまう。イスラエルの民を例えにするのをお許しください。自分がその場にいたら、同じことをしていたかもしれないし、もっと悪いことをしていたかもしれないのに、イスラエルの民に厳しくなる事がよくあります。彼らが、毎日毎日のマナに、飽き飽きしていたことを覚えていますか？

「今日のランチは何？」「マナだよ。」「また??」「また？昨日も食べたじゃないか。」「今日も本当にマナなのか？」「そう、明日も、その次も、その次も、その次も、その次も、その次も、その次もマナ。」

「マナで作れるのは、限られているじゃないか。」私は、聖書を教える人たちが、これを使って楽しんでいる様子が好きです。私もその一人でしょうが。マナコッティー、マナバーガー作れるものは限られています。もう新しいレシピを試してみようよ。まだまだマナです！ 彼らは飽き飽きしていたのです。主の方が、彼らに飽き飽きしておられます。そんな風に考えたことがありますか？ 時々思うのですが、私たちは反抗的な態度や不従順、頑固な態度で、どれほど神の心を悲しませているのでしょうか。皆さんは、私の話すことを何も分らないでしょう。自分自身に話していますから。私たちが、いかに神の心を悲しませるか分っています。神は私たちをととても愛してくださっていて、私たちのあらゆる必要を満たして下さいます。そして、私たちは文句を言い、感謝の気持ちがないのです。それが今日の、主との祈りの時間のことでした。一日中、私はただ主に、主がして下さいした事、与えて下さった事に感謝しない自分を、赦してほしいとお願いしました。小さなこともです。大きな事について言っているのではなく、もちろん大きな事は常に私たちは感謝します。私は、「九人はどこにいるのか。」(ルカ 17:17) を考えます。

私が誰について話しているかお分かりですね。イエスは、ツァラトに侵された 10 人を癒されました。その内のたった一人だけが戻って来て、イエスにお礼を言い、主に感謝したのです。興味深いと思いませんか？ 神がその記述を聖典に載せる必要があるとお考えになったことが。それを聖典に記す重要性のレベルになさったことが。それには何か理由があるはずです。そうなのです。神は目を留められます。感謝の心、感謝の姿勢に。最後にいつ皆さんは、祈りの時間に、ただ「主よ、これをこれを…」と列挙するのではなく、それは悪い事ではありませんが、違った種の祈りをしたのは？ 時にそれは、請願で、つまり、その祈りのリストを持って、御座に請願することです。しかし、あなたの祈りの時間の中で、最後にこう言ったのはいつでしょう。「主よ、ただあなたに感謝したいのです。」そして、違うリストを引っ張り出す。

「これも、これも、ああ、あれも、これも！ あなたに感謝したいのです。」「お～、あれを忘れていました！ あ～主よ、本当に本当に本当にありがとうございます。」そうすることで、主が祝福されないとは一瞬たりとも思っはけません。私たちはいつも話したり、言ったり、祈ったりもしていますよね。

「主よ、私を祝福してください。彼らを祝福してください。これを祝福してください。あれを祝福してください。」

最後にこう祈ったのはいつですか？「主よ、私はあなたを祝福したいのです。」「主よ、あなたを祝福します。あなたを賛美します。感謝します。」

「使徒の働き 13 章」だと思えます。記憶が悪くて。気をつけなければならないのは、しばらく読んでいなかった聖句箇所は、いつも間違ってしまうのです。でもその記述は、基本的に彼らは主を礼拝していて、主を祝福していたと言われています。何ですって？ 主が私たちを導き、祝福くださると思ってまし

た。いいえ彼らは、主に讃え、主を祝福していたのです。私が主を讃え、祝福できるのですか？ —はい。

私が主を祝福できるのですか？ —はい。♪主を祝福し讃えよ。私の魂の全てで。♪

♪私の中にあるすべてで、主の聖なる名を祝福します。♪

子どもさんや孫さんが、どれほどあなたの心を祝福してくれますか？ あなたに笑顔をもたらしてくれますか？ あなたを輝かせ、喜ばせ、祝福しますか？ 父の日や私の誕生日には決まって、大げさなことはしません。子どもたちは、聖なる意味で、私の誕生日と父の日が好きではありません。説明させてください。子どもたちが好きではない理由は、「父の日や誕生日に欲しいものは？」と聞くたびに、私の答えがもう分かっているからです。私はただ言います。「お前たちが欲しいのだよお前たちとお前たちの従順さが。」なぜなら、こんな風に考えるのです。神が決して持っておられないもので、あなたが神に与えられるものは何ですか？ 何という事でしょう。神は 全知全能であり、偏在なされる方です。私たちが言うように、「何でも持っている人にどんな贈り物をする？」神がまだ持っておられないもので、私が神に与えられるものは何でしょうか？ 従順さでは？ それがあなたに出来る事です。あなたの従順さは、犠牲よりも優れています。私たちが神に従順であるとき、神を祝福するのです。だから、もう聞かれることもないんですよ。もちろん数年後に、数え切れないほどになり、今では子どもたちも大人になりました。でも、その日が来ると彼らは口を揃えて言います。

「よし、パパの誕生日だから、僕たち従順になるよ。」「素晴らしい。本当にありがとう。」という感じです。そしてその翌日、私の誕生日の次の日は？ 反抗的な態度をとるでしょう。「誕生日だけ、祝福するよ。一日だけ従順になる。それがプレゼントのすべてだよ。」OK。分かった。それでいいよでは、25 節。ここで再びです。

### イザヤ 43

**25 わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。**

ふ〜イエス様、ありがとうございます。

**26 わたしに思い出させよ。ともにさばきに向かおう。あなたが正しいとされるために、あなたのほうから申し立てよ。**

**27 あなたの最初の先祖（アダム）は罪を犯し、あなたの仲保者たちはわたしに背いた。**

**28 それで、わたしは聖所のつかさたちを汚し、ヤコブが聖絶されるように、イスラエルがののしられるようにした。**

なんと、この章はこうして終わるのです。今、時計を見ていると、私がそう言ったから、皆さん、今から時計を見れますね。何か分かりますか？ たぶん 44 章にたどり着くにはちょっと楽観的すぎたかもしれません。皆さん、なぜ笑っているのですか？ やめて下さい。あまり宜しくありません。私に向かってではなく、私と一緒に笑っているのですよね？ 慣れているので大丈夫ですよ。さて、ご存知の通り、44 章は、来週にします。しかし、この章の最後の箇所について、少しだけお話ししたいと思います。つまり、一緒に考えてみてください。神はこの一連の説明をされ、恐れてはならないと命じておられます。ご自分が民を贖ったのだから、いつも共にいるのだから。それから続いて主は仰います。

「しかし、あなたはわたしを呼び求めなかった。あなたはわたしのことで疲れ果てた。」

そして、あなたのためでなく、わたし自身のために、あなたの罪を帳消しにしました。東が西から離れているように、私はあなたの罪を 遠ざけた。（詩篇 103：12 参照）

そしてわたしは、もうその罪を思い出さない。(ヘブル 8:12 参照)

あなたのためではなく、わたしのために。この誘因は、違う文脈だから、"挑戦"という言葉を使いたくありません。それほど強くはありませんが、十分な強さです。共に論じ合おうという呼びかけには十分必要な力があります。イザヤ書の後の方にも出てくると思いますが、「さあ、一緒に理由を考えよう。」

たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、わたしが雪のように白くする。(イザヤ 1:18 参照)

どうですか？ こども同じような感じですね。一緒に理由を考えましょう。みんなで論じ合いましょ。私は聞きますよ。あなたの話を聞きますよ。あなたの意見を聞かせてください。あなたが無罪になるように。いつかあなたを救えますか？ 無理でしょう。あなたには出来ないから。あなたは、アダム、罪を犯した最初の父親にあって生まれたからです。これで十分悪くないなら、ここに、あなたが無罪にならない別の理由もあります。自分で自分を裁くことはできないでしょう。あなたが選んだ仲介者もあなたと同じように罪深いからです。あなたの仲介者たちは私に背いてきました。で、どうするんですか？ 選択肢がなくなったようですね。実際、私があるあなたの立場であれば、告発された通りに罪を認めますよ。なぜならあなたが認める時、わたしはあなたを許すことができるのです。そしてあなたの罪をもう思い出さない。こう言う感じです。私たちが自分の罪を罪と認めない限り、神には御手を出せないのです。言い換えると、私たちが自分の罪を告白する時にするのは、自分のしたことが、罪であったと告白します。私たちが、主の御前で自分を好意的に見せようとはしません。私たちは、自分自身を正当化しようとしているわけではありません。その場をしのぐという感じなら、「まあ、そんな悪くはなかったんですよね。」

お～それがあなたの弁明ですか。自分の言い分を述べるのですか？ それがあなたの主張ですか？ 私たちはその弁明を聞くことはできますよ。私たちは論じ合い、理由を述べあう事は出来ます。しかし、それはあなたにとって、良い結果にはなりません。なぜなら、あなたは罪を犯しているからです。問題は、私たちが罪を犯すと、アダムの性質における私たちというのは、アダムとエバがした同じことをするのです。彼らは、それを隠そうとする。それが彼らがしたことです。再び、ユーモアをお許してください。彼らの罪のせいで、裸を隠すためにいちじくの葉を選ぶ？ イチジクの葉がどれだけチクチクするか知っていますか？ それについては止めておきます。考えすぎないように。そこで神がどうされたか？

神は二人を呼ばれました。神はアダムに仰います。「どこにいるのか。」(創世記 3:9)

まるで神は、アダムがどこにいるかご存知ないかのように。神は、アダムが告白し、清めてもらいに来るのを望まれました。そうすれば神は、彼らを清めることが御出来になります。では、どのように清めてくださるのでしょうか？ 神は子羊を取り、彼らが覆っているイチジクの葉を、羊の皮の衣に変えられます。ごめんなさい。(時間の都合は)分かっています。しかし神は、彼らの罪を覆うため、罪のない子羊の血を流さなければなりません。私たちがそれを神のもとに持って行き、神にさせていただこうとはしません。私たちがそれを隠します。私たちがそれを覆い隠そうとします。私たちがそれを隠し、覆い、告白しない時間が長ければ長いほど、サタンが私たちの人生に罪悪感と非難の基盤を築くことになります。事実、私たちが罪を犯す時、それが彼の唯一の目的となります。サタンは、私たちが十字架から遠ざけたいのです。私たちが十字架に行けば、即座に赦されるのを知っているからです。

「どれもこれも、うわー、かなりヤバかった。これは数日かかりそうだな。身を隠した方がいい。」

「いやあ、本当に失敗しました。ーああ、失敗だったね。「これは本当にマズいよ。」一分分かっています。敵はすぐそこにいます。実際、敵が何をするか知っていますか？ あなたの人生で敵がすることを知っています。彼は私の人生でこれをしてしています。敵は、私がポップコーンが好きなのを知っています。」

彼はポップコーンを渡して、私を椅子に座らせくつろがせます。そして、昔のホームビデオのDVDを出して、私に見せるため再生します。「あの時のことを覚えている？」お～。でしょう？ 私は、どうするのか？ 私は、こんな感じになります。「誰にも知られたくないよ。これを隠した方がいい、覆った方がいい。」主はこんな感じですよ。「あなたの父親であるアダムのように隠れるのはやめて、あなたがその覆いの後ろから出て来るなら、あなたの中にあるアダムの性質を表に出し、私のところに持ってくるなら、私はあなたを赦します。すでに支払われているからです。わたしはあなたを贖いました。わたしはあなたを贖ったのです。」

十字架に行くのが遅くなればなるほど、敵に自分を非難する許可を与えてしまうことになります。

**こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。**

**(ローマ 8:1)**

これが、敵がクリスチャンを敗北の中で歩ませ続ける一番の方法です。私たちの生活の中で、毎日数千回も繰り返されています。ちょっと考えてみてください -これで締めくくります。-

自分が罪を犯したとき、神が後ずさるさされると思いませんか？ 想像してみてください。

「JDは何をしたのか？いつの話だ？またやったのか？彼は私に約束し、誓いを立てたのに。」主よ、二度としません！」と。彼はまたしたのか？もう終わりだ！！！」それが、サタンの思惑通りです。

非常に大げさな表現ではありますが、要点は分かりますよね？ 違います。ここには、言わばもう一つの層があります。どこかの時点では、私たちはもっとよく知るべきだと少しでも思っていますか？

「あなたは、主と共に歩み続けて39年、40年になろうとしているんですよ。あなたはきっとこの場所に辿り着いている筈。」そこで言うのは、敵はあなたをその道に向かわせれるなら、リムジンを用意して、あなたが望むなら運転してくれるでしょう。その道が何か知っていますよね？「まあ、そんなことは絶対にしないけどね。」お～本当に？「高ぶりは崩落の前にある」という言葉があります。あなたが罪をもしも犯すなら、ではなく犯す時、

「ええ、私は40年、主と共に歩み続けていますが、未だに罪を犯します。」ダァーッ！あなたは、この体において、肉にあって、天のこちら側で、罪のない人間になれますか？使徒パウロが言いました。

**「自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。」(ローマ 7:18)**

ある翻訳では、そのことに触れてこう言っています。“私は腐っていて、根っからの罪びとです。” ”私は罪びとです。”主がこう仰るなど、一瞬たりとも考えてはいけません。

「JD、あなたは39年も、私と一緒に歩んできたのに、まだ罪を犯しているのかい？どうしたんだ？そろそろ分かって来てもいいものを。一体どうしたんだ？あなたは罪を犯した！どうするのだ？」

違います。全くもって違います。既になされています。「完了した。」(ヨハネ 19:30)

もう一歩踏み込んで言わせてください。これで最後だと約束します。最後の最後です。本当です。カポノ(賛美チーム)は、上がってきてください。皆さん、ご起立ください。そうしなければなりません。どうぞご起立ください。最後の考えです。これを一緒に考えてほしいのです。

もしも主の来臨が遅れるなら、言いますよ？ 皆さんまた罪を犯します。ショックなのは分かっています。皆さん、ご自分の未来の罪にも既に支払われているのをご存知ですか？あなたが今までに犯した全ての罪、あなたが今も犯している全ての罪、言えますか？「もう終わりです。」それが罪です。悔い改めなければなりません。今後、あなたが犯すであろう全ての罪が完全に支払われ、あなたは赦されるのです。罪悪感はありません。非難されることもありません。今度サタンが、あなたにそれを思い出させよう

としたら、彼に思い出させるのです。

「ああ、私があなただったら喋らないな。あなたのことを黙示録で読んだ。」

それがサタンが、クリスチャンに黙示録を読まないようにさせている理由です。自分が最後に、永遠に火の池に落とされるのが書いた本を誰かに読んでほしいですか？ ええ、私も皆さんにそんな本は読んでほしくないですね。理にかなってますよね。敵があなたに思い出させるとき、彼に思い出させるのです。彼はあなたの過去についてを言いますが、あなたは彼に未来を思い出させるのです。祈りましょう。悪くなかったですね。

お父様。ありがとうございます。主よ、あなたの御言葉に感謝します。あなたの愛に感謝します。私たちが、あなたの御目に、尊いことを感謝します。あなたがいつも共にいて下さる事に感謝します。私たちに恐れるものは何もないことに、私たちはあなたのものであり、あなたに属していることに感謝します。そして私たちの罪が赦されていること、あなたがそれを思い出されないことに感謝します。

主よ、ありがとうございます。イエスの御名によって。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7